



P2) キッチンとダイニング吹抜けの窓から神社の木々が見える。大きく成長した木々は迫力があり力強さを感じさせるが、時間や天気、季節毎の変化で暮らしを楽しませてくれる。キッチン横の一帖程のスペースには洗濯機が置かれ、家事をコンパクトに行う工夫もされている。

上) 中庭からの外観写真。中庭を囲むようにL型配置で作られた窓は、朝から夕方まで十分な日差しを室内に入れてくれる。『雫の家』は2つの屋根で構成され、大きな屋根の中はダイナミックな空間に、小さな屋根の中は落ち着いた雰囲気的空間に分かれている。

左) 北側道路からの外観。2階に子供室を設けつつもなるべく低めの構えとなるように内部を工夫した外観。キッチンとダイニング吹抜けの窓から溢れる灯りがとても綺麗と話してくれた。



敷地からのイメージと ものづくりへの思い

今回の土地は敷地の北西側に神社があり、小高い山になった広く伸び伸びとした場所です。神社には大きな木々も多く存在感がありますが、風で葉がなびく心地良さや清々しさを間近で感じられる、少し特別な印象の場所だと感じました。

Nさんは家づくりを考え始めた頃から具体的なイメージを持っていました。それは家をなるべく低く構えた平屋的なフォルムと、庭と室内がつながった明るく伸び伸びとした間取り。大学で建築を学んでいたNさんにとって家づくりは企画的な住宅の買物ではなく、様々な工夫や仕掛けのある、ものづくりの延長線上にある家づくりを望んでいました。打合せの中でも高さや見え方にこだわり、色や形などにも妥協する事なく細部までこだわりをもって決めていきました。

『雫の家』というタイトルは、そんなNさんのこだわりから思いついたタイトル。ぎゅっと絞って最後に出た一滴のアイデアには様々な工夫や思いが込められています。またこのタイトルは酒造りを行っているNさんのお仕事にも繋がり、ものづくりの楽しさや喜びを表現したタイトルとなりました。

一滴のアイデアからはじまる暮らし

完成現場報告
藤枝市／『雫の家』
文・写真／コロボ 山崎健治

静岡市に近い場所でありながら静かでのどかな風景の残る岡部町。東海道の宿場町のイメージと重なり、どこか愛着のもてる町といった印象です。実際に岡部町で暮らしたいと希望する声も多く聞きますが、農地や調整区域内の規制もあり、また山間の土地も多く地形的にも適した場所を見つけるのはなかなか難しいといった声も聞きます。今回ご紹介する『雫の家』のNさんも、初めてお会いしたときに、静かでのんびりとした風景の中で暮らしていきたいと話されていた事を覚えています。岡部町だけにこだわっていたわけではないようですが、希望する土地の雰囲気やご主人の仕事場との関係から候補にあがり色々な土地を探されていきました。建築相談で事務所に来ていただいた時はまだ良い土地が見つからないと話していましたが、奥さんの頑張りで希望に近い土地を見つける事ができ、徐々に計画をしながらこの場所での家づくりがスタートしていきました。





浴室) 浴室と洗面室を一体の空間でまとめた。床と壁には奥さんの選んだタイルを貼り、天井板には樫(サワラ)板使い暖かみを演出した。浴室のシャワーや洗面化粧台にもこだわり、ホテルのバスルームをイメージさせるエレガントな浴室となった。

上・階段) 2階の子供室に上がる階段は、アイアンと杉板を合せて製作した。水廻りへのアプローチは、1FLから一段下がったタイル貼のホールからとなっている。ちょっとした変化が空間に楽しみを与えている。

下・トイレ) 基礎の立ち上がり部分と床にタイルを貼っている。床のタイルは少し懐かしい玉石のモザイク柄。



我が家のオリジナルをつくる

大きなガラス窓については前例も多く、コロボの標準納まりとして製作していきましたが、今回のもうひとつの特徴である浴室や洗面などの水廻りには時間をかけ、みんなでアイデアを出し合いながら細部まで決めていきました。水廻りへの動線を見ると少し変わった事に気がつきませんか？

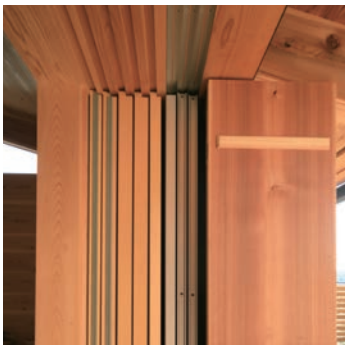
階段の隣：そうです、通常の床の高さから一段下がった位置にトイレと洗面、浴室の下に水廻りをまとめ、その部分を一段下げる事で高さを抑えました。また2階の子供室にもあえて段差を持たせ、どちらも楽しい空間になればと計画しました。床の高さから一段下げると基礎との関係が出てきます。基礎の立ち上がり面が見えないようにに納まりを工夫しつつ自然な形で少し変わった空間を造り上げていきました。一段下がった床にはタイルを貼り、湿気対策も併せて行いました。浴室と洗面はあえて一室にまとめて広々としたスペースとし、壁

にはタイルを貼り、天井には樫の板を貼りました。また、シャワー器具や洗面台にもこだわり、ホテルのシャワールームを思わせるエレガントな浴室になりました。水廻りが一段下がっているため2階への上り下りも通常の三分の二ほどとなり、子供室が少し近くに感じられる空間になりました。2階に上がる階段にもひと工夫加え、スツキリとした印象の階段を製作しました。ササラ桁と呼ばれる部分にアイアンを使い、階段の形に合わせてギザギザに。段板と呼ばれる部分には杉の厚板を貼り、しっかりと踏み心地の階段になりました。水廻りへの動線など、少し複雑に絡み合っている場所なので、さっぱりとした抜けのある階段としました。

今回の案は、風景と似合う低めの外観という要望からスタートしましたが、水廻りや子供室、階段などに色々な工夫を凝らす事になり、『雫の家』のオリジナルのアレンジとなりました。設計の仕事をしていて一番楽しいと思える時はまさにこの様な場面で、ひとつの要望や課題をいただき、その希望にどのような形で答えられるか。そして、様々な部分まで綿密に考えトータルにまとまった時、大きな喜びを感じる事ができます。お施主さんもまた、我が家ならではのオリジナルを造る事で愛着も深まり、楽しい毎日を送っていただく事ができると思います。



キッチンから中庭を見る。大きなガラス窓は、ダイニングと広間にかけてL型に配置されている。朝はダイニングに、午後は広間に日差しが差し込み、一日中明るく暖かい家だと喜んでいただいた。



大きな窓は戸袋に収納する事ができる。ガラス戸の他に網戸や雨戸も収納され、全てを開放して中庭との一体感を楽しむ事もできる。



広間から中庭を見る。ダイニングの吹抜けに比べ高さを低く抑えた広間は落ち着いた空間になった。広間に置かれた薪ストーブはこのスペースだけでなく家全体を暖めてくれる。

先人の知恵に学んだ 工夫と新しい試み

『雫の家』の特徴は、中庭に大きく開放したL型のガラス窓と浴室などの水廻りの工夫です。敷地に対して方位が45度程西にずれていたため、広間とダイニングをL型配置とし、中庭に面する部分を大きなガラスの引き込み窓にしました。朝日が昇るとダイニングとキッチンに日が差し込み、時間と共に広間に移動していきます。撮影でお伺いした日も天気が良く、朝の10時から段々と日差しが移り、それぞれの部屋に暖かな光が入っている事がよくわかりました。木で製作した大きなガラス窓は全部で5枚。全ての建具が戸袋に引き込まれる大きなガラス窓はコロボ定番で、それぞれに網戸や雨戸を加えると、鴨居や敷居はとも大きくなります。現代の規格型の住宅などに比べてとても大きな窓だと感じると思いますが、民家や昔ながらの日本家屋を見ると縁側や広間などに同じ様な大きな窓があった事に気がつきます。冬の暖かな日差しや夏の風通しなど、住む人にとっても快適性を与えてくれる窓ですが、十分な採光や通風は家の耐久性にも大きな意味があると感じています。先人の知恵に学び、また現代の暮らしに合う工夫を取り入れ、家も家族も健やかである事が一番ですね。



はじめての薪ストーブライフ



上) Nさんの選んだ機種はSCAN CI-8GLCB。ボックス型のシンプルで大きなガラス面からの綺麗な炎が楽しめる。側面は対流壁となり、安全性の向上と室内を効率よく暖める工夫が。

薪小屋) Nさんオリジナルの薪小屋。知り合いに声を掛けてもらったり、近くの山から分けてもらい、あっという間に小屋いっぱい薪を確保していた。



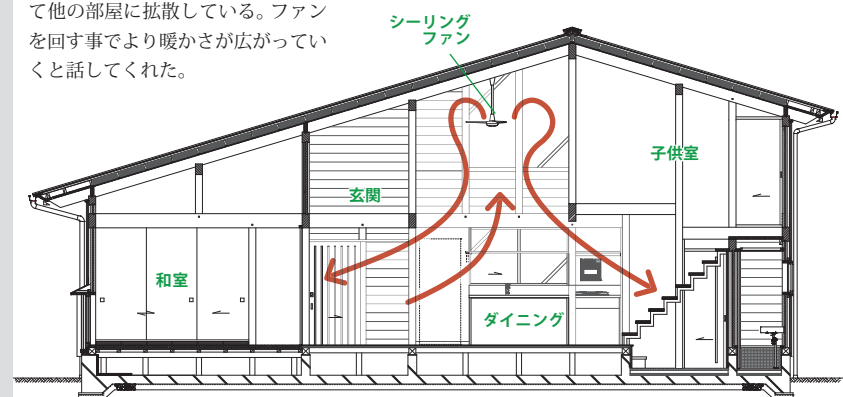
薪割り) 薪ストーブユーザー仲間との薪づくり。作業と併せて情報交換を行い、疲れながらも楽しい時間。はじめてのシーズンにしては慣れた手付きのNさん。

『雫の家』が完成し、8ヶ月が経過しました。この冬は初めて薪ストーブを使うという事もあり、いつもより楽しみな冬に。家の完成後、休みを利用して薪小屋を製作したNさんは、自己流であっという間に大きな薪小屋を3つも造っていました。薪も近くの山や知り合いから集め、初めてのシーズンでありながら自分で作った薪を貯めて早速使用していました。薪を割る姿も様になり、初めての年とは思えないほど慣れた様子で薪ストーブライフを楽しんでいるようです。

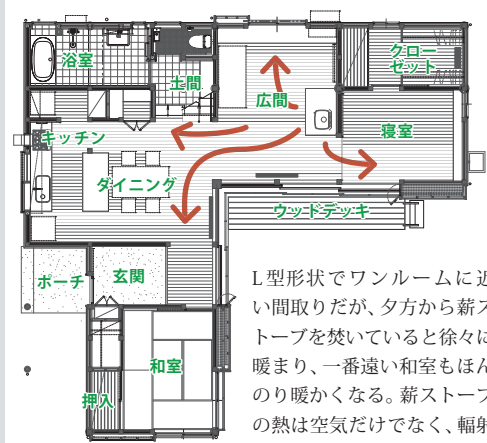
1階が広く、各部屋の仕切りはあまり無いお宅なのですが、広間やダイニングは全く問題なく暖まり、玄関を挟んでいる和室も扉を開けておけばそれなりに暖かくなると伺いました。時間と共に子供室のある2階や吹抜けが暖まるので、吹抜けの天井ファンを使用して暖かい空気を下ろして調整しているのですが、ファンを回していると暖かな空気が循環し、和室もより暖かくなるということでした。気になったお子さんの反応ですが、火をつける時は少し興味を示してやりたがるけど、火がつくと熱いのか近寄らないと…。ただ、ふざけたりして転ぶなど少し危ない場面もある様ですが、子供も薪ストーブのある暮らしにだんだんと慣れていき、それ程大きな心配は無いと話してくれました。

火のある暮らしは現代では少し特別な暮らしだと思いますが、それが当たり前で生活していく子供たちは大きくなってどのような考え方をもちのか興味深い所です。薪ストーブを通じて、薪づくりの思い出や暖かさ、ゆくゆくは森林や環境についても関心の持てる大人になってくれるといいですね。そんな大人たちが増えたら、未来がちょっとだけ変わるかもしれません。

暖かい空気は吹抜け上部に溜まってくるので、シーリングファンを回して他の部屋に拡散している。ファンを回す事でより暖かさが広がっていくと話してくれた。



断面図



1F平面図

L型形状でワンルームに近い間取りだが、夕方から薪ストーブを焚いていると徐々に暖まり、一番遠い和室もほんのり暖かくなる。薪ストーブの熱は空気だけでなく、輻射熱で壁や天井、床を暖めながら家全体を包んでくれる。



右上) 吹抜けには大きなガラス窓とあわせて丸窓を製作した。丸窓は子供室とダイニングをつなぐ窓となり、この部屋のワンポイントになっている。色はパステル調の淡いグリーン。形と合せて若々して雰囲気となった。

右下右) 広間とつなげて設けた部屋には低い本棚と三角FIX窓を製作した。将来は夫婦の寝室として使う予定だが、現在は多目的に使える部屋となり、主に子供の遊び場となっている。

右下左) キッチン窓から外を眺める。キッチンの配置は色々悩んだ結果、やっぱり外が見たいという事でシンクは窓向きになった。窓は木製で大きく作り、棚板や窓枠を利用して好みのディスプレイを楽しんでいる。

左上) 広間の東側に設けた山見障子窓と吊地袋。好みの色やちょっとした工夫を取り入れて家のアクセントにした。障子は雪見障子の逆バージョンで山見障子とし、隣地への目隠し兼山並みの景色を取り入れている。障子は上げ下げする事ができる。



好みの色と景色

大きなガラス窓や水廻りの他にも『雫の家』の特徴はまだあります。そのひとつが写真でも解るように、通常ではあまり使わない「色」を木の家の中に使った事。子供室とダイニングをつなぐ丸窓には淡いグリーンの扉を入れました。これは奥さんの好みの扉を入れました。これは奥さんの好みの印象の室内になりました。また、広間の窓に設けた山見障子や、ダイニングに設けた大きな吹抜けもこの家の大きな特徴です。山見障子からは遠くの山並みが見え、吹抜けとキッチンの窓からは近くの神社の山の木が見えます。どちらも青々とした木々の清々しさが心地良い窓となり、お気に入り景色となつていくようです。また、この窓からこぼれる灯りがとても綺麗で、夕方には道行く人が見えている事もあるとか。カーテンなどで隠すのがあまり好きでは無いという奥さんは、キッチンの様子が少々見えなくてももう気にならないと話していました。住宅地や街中ではとても気になる視線も、おそろかなこの風景の中ではあまり気にならないのかな？ それよりも毎日窓から見える木々や青い空、行き交う人の様子も楽しみの一部になっているのかもしれないと思いました。



玄関近くに設けた和室。板倉のシンプルな和室だが一帖の床の間を設えた。今は寝室として利用しているが、床の間に季節や思い出の飾りなどを飾って、ゆくゆくは趣のある部屋として育てていただきたい。

子供室内部。室内に階段があったり丸窓があったりと楽しい空間になっている。屋根裏部分を利用しているので隠れ部屋の雰囲気も。



板倉の家を 好みにアレンジ！

『雫の家』はコロバ定番の落とし込み板壁構法(板倉構法)ですが、所々にオリジナリティーを加えNさん好みのアレンジしています。木の力強さや心地良さを活かし、開放感ある木の家を造りつつもちょっとした遊び心やデザインを楽しめる家に。キッチンや収納などを極力シンプルにし、その分照明器具や階段、窓などにデザイン性を加えています。若々しさのあるNさんのアレンジを少しだけ紹介いたします。



キッチンはステンレス天板のみのオープンなつくりにし、市販の棚や籠などを使って好みにアレンジして使っている。



ダイニングから広間を眺める。ダイニングやキッチンに居ても薪ストーブの炎が見られるように薪ストーブを配置した。家事で忙しく動いていると火が消えてしまう事もあるので、ちらっと見える配置は助かります。テーブル上のペンダントはframeのmousseとhangerを組み合わせている。

仕様内容	
家族構成	家族3人
敷地面積	396.79㎡
建築面積	98.04㎡
延べ床面積	101.03㎡
構法	板倉構法 2階建て
屋根	ガルバリウム鋼板 タテハゼ葺き
外壁	マサ土掻き落し左官仕上げ
外部建具	木製オリジナル建具 タモ、ナラ、ヒバ ペアガラス アルミサッシ(ペアガラス)
天井仕上	化粧野地板現し 杉板本実張り 厚30mm 杉板本実張り 厚12mm
壁	落とし込み板現し、漆喰塗り
床	クリ本実板 厚15mm
内部建具	オリジナル木製建具
キッチン	オリジナルキッチン
洗面化粧台	TOTO化粧台 cera スタルクシリーズ STARCK3
浴室	オリジナル浴室 床、壁:タイル貼り
設計者	山崎健治
施工	有限会社こころ木造建築研究所
竣工	平成26年5月



右: 玄関内部正面。玄関を開けると正面に中庭を望む事ができる。壁で仕切られているが上部はダイニングとオープンにつながり、一体感のある玄関ホールとなっている。



を行い、家での時間を楽しみつつ色々と計画をしているようです。若々しいこの家が時間と共に成熟し、きつと味のある家に変化していくでしょうね。これからも急がずゆっくりと、木の家ライフを楽しんでください。

左: 玄関建具とブラケット照明。玄関建具と外壁は落ち着いた雰囲気にと、ブラケット照明はルイスボールセンPH3—2 1/2ウォールをアクセントとした。



若々しさと 熟成の楽しみ

Nさんとの最初の出会いから2年半ほど経過しました。知り合った当初Nさんご夫婦はまだ20代で、見た目にも若々しさと元気のあるご夫婦でした。私から見ても一回り以上若い世代が森林や環境、職人の手仕事等に興味をもち、木の家づくりを真剣に考えてくれているという事にとっても感激した事を覚えています。また、それらを単に流行とか見た目の形と捉えず、木の持つ良さや職人の技術をしっかりと理解しようと努めてくれた事や、実際に出来上がっていく家の様子を喜んでくれ、またそれらが職人にも伝わり、つくり手としての喜びも与えてくれる家づくりだったと思います。今、木の家はだんだんと注目を浴び、木の心地良さと優しさなどが若い世代にも広がっています。木の家の良さが理解され増えていく事はとても嬉しい事だと思ふ反面、植物である木を扱う上での難しさや怖さも知らなくてはいけないという事も事実で、それらをしっかりと住まい手に伝え、二人三脚での家づくりがとても大切だと感じています。今回Nさんとの家づくりを通して、土地選びから設計、工事と、それぞれの過程で改めて見直す事も多く、また新しい発見が楽しい家づくりでもありました。完成後、薪小屋の他にも板塀や芝生なども自ら工事